

10. プーチン大統領の2019年施政演説



2019年2月20日、プーチン大統領は、連邦議員を含むロシア指導者を集めて年次施政報告演説を行った。大統領は、米国がロシアのINF全廃条約違反を一方向的に批判して条約を破棄した米国に対し、米国のルーマニアやポーランドへのイージス・アショア配備こそINF全廃条約に違反すると批判した。また、2018年の演説(本章9)に続いて、新戦略兵器の開発進展を誇示した。

❖ ロシア連邦議会に対する大統領演説(抜粋) ❖

2019年2月20日、モスクワ

(前略)

グローバルな競争がますます科学、技術、そして教育へと移行していることがわかる。つい最近まで、ロシアが国防において、飛躍的進歩を遂げることはあり得ないと、ましてやハイテク分野における飛躍的進歩を遂げることはあり得ないと思われた。これは困難で複雑な作業であった。多くのことを復興させ、あるいはゼロから始めなければならず、新境地を開拓し、大胆でユニークな解決策を見つけることが必要であった。それにもかかわらず、それはなし遂げられた。それは、これらのプロジェクトで育った非常に若い人々を含む、我が技術者、労働者、科学者によってなし遂げられたのだ。この大規模な取り組みの詳細のすべてを私は知っているとして改めて申し上げたい。そして、たとえば、戦略的極超音速滑空体アバンガードの開発は、世界初の人工衛星の打ち上げに匹敵すると言っても決して間違いではない。これは国の防衛能力と安全保障を強化する。それは主要な目標ではあるのだが、その点においてだけでなく、科学的潜在能力の強化と独自の技術資産の開発に対しても影響を与えるという点においてもそう言えるのである。

(略)

米国の中距離核戦力(INF)全廃条約からの一方向的な離脱は、最も緊急で最も議論されている米露関係の問題である。(略) 実際、1987年に条約が署名されて以降、世界では重要な変化が生まれている。多くの国が、こうした兵器を開発し、その改良を重ねている。しかし、ロシアと米国は違う。我々は、この分野については自由意思のもとで、我々自身を制限してきた。当然だが、こうした状況が問題を生んでいるのである。我々のパートナーである米国は、一方向的な条約からの離脱を正当化するためにこじつけの非難をロシアに浴びせるのではなく、ただ本当に正直に発言すればよかったのである。(略)

私がすでに説明した全ての事に取り組んだにも関わらず、米国はINF条約の4条と6条によって規定されている定めを、明らかにかつ厚かましく無視している。第4条1項によると「両国は、全ての中距離ミサイルとそのミサイルの発射装置を廃棄し、…そうすることで、…どのようなミサイルや発射装置も…どちらの締約国によっても保持されない」、第6条第1段落は「条約の発効後、いずれの締約国もいかなる中距離ミサイルの生産または飛行実験もしてはならず、そのよ

うなミサイルの発射台や発射装置をも生産してはならない」と規定する。

中距離目標ミサイルを使用することや、トマホーク巡航ミサイルの発射に対応する発射装置をルーマニアやポーランドに配備することで、米国はこうしたINF全廃条約の条項に公然と違反してきた。

(略)

私が昨年の演説で述べた有望な試作モデルと兵器システムに関する作業は予定通りに、そして中断なしに続けられている。我々は、(略)アバンガルド・システムの連続生産を開始した。計画通り、今年、戦略ミサイル部隊の連隊が初めてアバンガルドを装備する。前例のないパワーを有する超重量級の大陸間ミサイルであるサルマートは一連の実験を行っている。ペレスベート・レーザー兵器とキンジャル極超音速弾道ミサイルを搭載した飛行システムは、試験中および警戒任務中に独自の特性を証明し、同時に要員はそれらの操作方法を学んだ。来年12月、国軍に供給されたすべてのペレスベート・ミサイルが待機状態になるであろう。キンジャル・ミサイルを搭載したMiG-31迎撃装置のためのインフラストラクチャーを拡張し続けている。射程に制限がないブレベストロニクス原子力巡航ミサイルとポセイドン原子力無人潜水艦は正常に実験を行っている。

この文脈において、私は重要な宣言をしたいと思う。(略)今日、我々は、今春にこの無人機を運ぶ最初の原子力潜水艦が就航すると言うことができる。事業は計画通りに進んでいる。(略) もう一つの有望な技術革新は、およそマッハ9の速度に達することができ、水中でも地上でも1000km以上離れた目標を攻撃することができる極超音速ミサイル・ツィルコンである。それは高精度ミサイル・カリブルを運搬するために開発され建造されたものも含めて水上と水中から、すなわち、水上艦と潜水艦から発射することができる。

(略)

結論として、INF全廃条約からの米国による一方的な離脱について、言いたいことがある。近年のロシアに対する米国の政策は、友好的とはいえないものがある。ロシアの正当な利益は無視され、反ロシア・キャンペーンが絶えず行われており、国際法に照らして違法なさらに多くの制裁が何の理由もなく課されている。(略) 過去数十年にわたって形成されてきた国際的な安全保障構造は完全にそして一方的に解体されており、常にロシアは米国に対する主要な脅威に近い存在として言及されている。

(略)

持続可能な長期的発展のためには平和が必要であることをもう一度強調したい。防衛力を向上させるための我々の努力はただ一つの目的のためだけにある。つまり、誰も我々に圧力をかけたり、我々に対する攻撃を開始することさえ考えないように、この国と我々市民の安全を確保することである。

(後略)

出典：ロシア大統領府HP
<http://en.kremlin.ru/events/president/news/59863>
アクセス日：2020年3月23日